

1 急性心膜炎で正しいのはどれか。

- a 心膜摩擦音は腹臥位でよく聴取される。
- b 限局した誘導でST上昇が認められる。
- c 診断には心膜穿刺が必須である。
- d 結核性では心膜液中のアデノシンデアミナーゼ (ADA) が低下する。
- e 原因として最も頻度が高いのは甲状腺機能低下症である。

2 73歳の男性。主訴：黄疸。(画像：PTCD造影)

この黄疸患者において、誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 胆管癌が疑われる。
- b 胆管胆石が疑われる。
- c 先天性総胆管拡張症を認める。
- d 肝内胆管の拡張が認められる。
- e 直接ビリルビンが上昇している。



PTCD造影

3 播種性血管内凝固症候群 (DIC) について正しいのはどれか。2つ選べ。

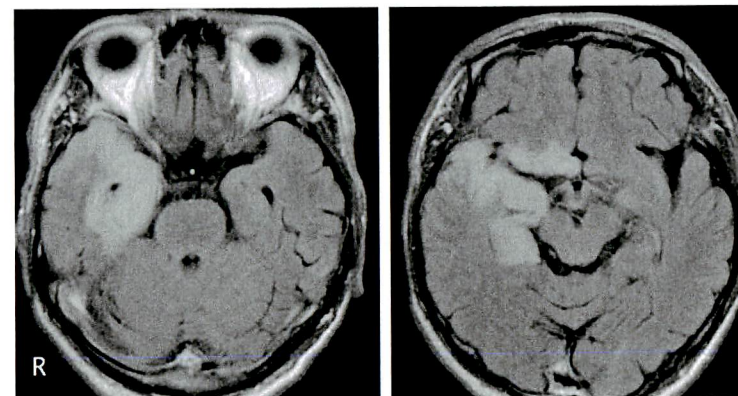
- a 微小血管内に血小板血栓が形成される。
- b ヘパリン治療は、ATIIIが低値でも有効である。
- c 血小板輸血は、血栓形成を助長させるので推奨されない。
- d 感染症に合併するDICは凝固優位型で、臓器障害を来しやすい。
- e 急性前骨髄球性白血病に合併するDICは線溶優位型で、出血症状が強い。

4 43歳の男性。痙攣重積で入院した。頭部MRI FLAIR画像を示す。

髄液細胞数 $90/\mu\ell$ (全てリンパ球) (基準 0~5)。糖 76 mg/dl (基準 $50\sim75$)。蛋白 120 mg/dl (基準 $15\sim45$)

最も考えられるのはどれか。

- a MELAS
- b 悪性リンパ腫
- c 多発性硬化症
- d 単純ヘルペス脳炎
- e 急性散在性脳脊髄炎 (ADEM)



頭部MRI FLAIR画像

5 遺伝性腎疾患はどれか。2つ選べ。

- a Alport症候群
- b Goodpasture症候群
- c 紫斑病性腎炎
- d 多発性のう胞腎
- e ルーブス腎炎

6 インスリノーマについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 膵ランゲルハンス島A細胞から発生する。
- b 絶食試験が診断に有用である。
- c Merseburgの3徴がみられる。
- d MEN1型の合併がみられる。
- e 悪性腫瘍の頻度が高い。

7 肺性心を起こしうる疾患（状態）について誤っているのはどれか。

- a 高地在住
- b 肺結核の胸郭成形手術後
- c 慢性閉塞性肺疾患
- d 慢性肺血栓塞栓症
- e 僧帽弁狭窄症

8 羊水過多の原因となるのはどれか。2つ選べ。

- a 鎖 肛
- b 食道閉鎖
- c 妊娠糖尿病
- d 妊娠高血圧腎症
- e 子宮内胎児発育遅延

9 最近の我が国の喫煙状況で正しいのはどれか。

- a 女性の喫煙率はアメリカ女性の喫煙率よりも高い。
- b 男性の喫煙率はアメリカ男性の喫煙率よりも低い。
- c 女性の喫煙率は増加傾向にある。
- d 男性の喫煙率は減少傾向にある。
- e 女性の喫煙率は約25%である。

10 抗菌薬が有効なのはどれか。2つ選べ。

- a 日本脳炎
- b 伝染性紅斑
- c 突発性発疹
- d レジオネラ肺炎
- e クラミジア肺炎

11 外鼠径ヘルニアについて正しいのはどれか。

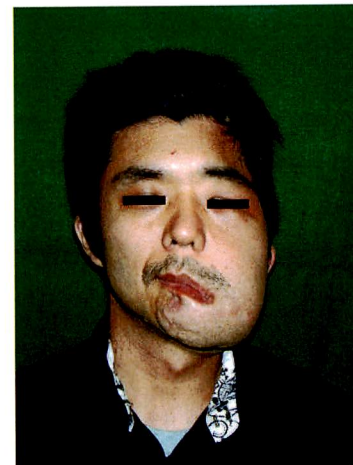
- a 女児に多い。
- b 右側に多い。
- c cotton signが診断に有用である。
- d 嵌頓症例は自然に整復するのを待つ。
- e 手術の原則はヘルニア嚢の単純低位結紮法である。

12 母体感染により先天異常の原因とならないのはどれか。

- a トキソプラズマ
- b サイトメガロウイルス
- c 風疹ウイルス
- d A型肝炎ウイルス
- e パルボウイルス

13 写真の疾患で見られないのはどれか。

- a 骨変形
- b 神経線維腫
- c 木葉状白斑
- d 神経腫性象皮症
- e 常染色体優性遺伝



写真



写真

14 マンモグラフィでポップコーン様の粗大石灰化象を呈するのはどれか。

- a 乳 癌
- b 乳腺症
- c 乳腺葉状腫瘍
- d 乳腺線維腺腫
- e 乳腺乳管内乳頭腫

15 弛緩出血の原因となりやすいのはどれか。2つ選べ。

- a 子宮内胎児発育遅延
- b 前期破水
- c 羊水過多
- d 切迫早産
- e 双 胎

16 甲状腺乳頭癌で正しいのはどれか。

- a 男性に多い。
- b 化学療法が奏功する。
- c リンパ行性転移が多い。
- d 高カルシトニン血症を伴う。
- e びまん性甲状腺腫を呈する。

17 Functional dyspepsia (FD) について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 外科的治療が第一選択である。
- b 病悩期間が短いため治療適応になりにくい。
- c 十二指腸潰瘍とは鑑別が比較的困難である。
- d 診断基準の4症状に「心窩部痛」が含まれる。
- e 成因として心理社会的な要素も考慮に入れるべきである。

18 意識を消失し、けいれんしている幼児の初期対応として適切なのはどれか。

- a 体が震えないように抱きしめた。
- b 意識を回復させるために、呼びかけ続けた。
- c 舌を噛まないように、バスタオルをくわえさせた。
- d 急いで救急車を要請するために、その場を離れた。
- e 周囲の危険物（振動により倒れるものなど）を排除した。

19 病識が欠如する患者の割合が最も高いのはどれか。

- a 勃起不全症
- b 消化性潰瘍
- c パニック障害
- d 過敏性腸症候群
- e 神経性食思不振症

20 組み合わせで、適切でないのはどれか。

- a 新生児黄疸———光線療法
- b 動脈管開存症———プロスタグランジンE1製薬投与
- c 未熟児網膜症———レーザ光凝固療法
- d 新生児メレナ———ビタミンK投与
- e 新生児呼吸窮迫症候群———サーファクタント補充療法

21 アルコール離脱症状として、正しいのはどれか。

- a 徐 脈
- b 低体温
- c 複雑酩酊
- d けいれん発作
- e Wernicke脳症

22 結核に関連する皮膚疾患はどれか。

- a 皮膚筋炎
- b Celsus禿瘡
- c 尋常性狼瘡
- d 膿疱性乾癬
- e 化膿性汗腺炎

23 頭部単純CT像でみられる石灰化の部位と疾患の適切な組合せはどれか。2つ選べ。

- a 鞍上部———胚 腫
- b 松果体———奇形腫
- c 小 脳———髄膜瘤腫症
- d 前頭葉———乏突起膠腫
- e 第四脳室———頭蓋咽頭腫

24 Dupuytren拘縮について誤っているのはどれか。

- a 白人に多い。
- b 男性に多い。
- c 思春期に多い。
- d 環指と小指に多い。
- e 手掌腱膜の線維腫症である。

25 強迫性障害の症状として正しいのはどれか。

- a 幻 覚
- b 錯 覚
- c 行為心迫
- d 不潔恐怖
- e 一次妄想

26 放射線による晩期障害はどれか。

- a 脳卒中
- b 偏頭痛
- c 白内障
- d 潰瘍性大腸炎
- e 甲状腺機能亢進症

27 嚔声をきたさないのはどれか。

- a 喉頭癌
- b 声帯ポリープ
- c ポリープ様声帯
- d 急性喉頭蓋炎
- e 急性声門下喉頭炎

28 停留精巣の部位診断に用いる検査で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 試験開腹
- b 腹腔鏡検査
- c 骨盤部動脈造影
- d 血流シンチグラム (TCHSA)
- e 鼠径・骨盤部MRI

29 正しいのはどれか。

- a 閉経後に子宮筋腫は増大しやすい。
- b 閉経後に子宮腺筋症は増大しやすい。
- c 閉経後に卵巣チョコレート嚢胞は増大しやすい。
- d 更年期に機能性子宮出血は発症しやすい。
- e 更年期に骨密度の変化はみられない。

30 血清病でみられるのはどれか。2つ選べ。

- a 発 熱
- b 脱 毛
- c 皮下結節
- d 喘息発作
- e リンパ節腫脹

31 発作性夜間ヘモグロビン尿症について正しいのはどれか。

- a Ham試験陰性
- b Coombs試験陽性
- c 直接ビリルビン増加
- d 先天性血管内溶血性疾患である。
- e GPI アンカー蛋白の欠損が原因である。

32 心収縮力を低下させずに心拍数を減少させる薬剤はどれか。

- a ジギタリス
- b カルシウム拮抗薬
- c β 遮断薬
- d ドブタミン
- e 亜硝酸薬

33 腎細胞癌について正しいのはどれか。

- a 尿細胞診の陽性率が高い。
- b 腎糸球体が発生母地である。
- c 結節性硬化症に合併しやすい。
- d 腎尿管全摘除術の適応となる。
- e 組織型として淡明細胞癌が最も多い。

34 急性心筋梗塞の早期合併症（2週以内）はどれか。2つ選べ。

- a 心室瘤
- b 心破裂
- c 収縮性心膜炎
- d 房室ブロック
- e Dressler症候群

35 虚血性大腸炎について誤っているのはどれか。

- a 高齢者に多い。
- b 下行結腸に好発する。
- c 輪状潰瘍が特徴的である。
- d 一過性型がもっとも多い。
- e 夜間に発症することが多い。

36 悪性リンパ腫の病期分類のために施行する検査に関して、誤っているのはどれか。

- a 全身CTは、頸部から鼠径部までの範囲を調べる。
- b FDG-PETは、尿路系病変の有無を評価するには適さない。
- c 骨髄浸潤の有無は、部位は胸骨で、骨髄穿刺と生検の両方で評価する。
- d 病変部に取り込まれなかった⁶⁷Ga-クエン酸は、主に便中に排泄される。
- e 便潜血が陽性の場合、上部および下部消化管のファイバーをおこなうことが推奨される。

37 一側の滑車神経麻痺でみられる所見はどれか。

- a 上外方視で複視がでる。
- b 下外方視で複視がでる。
- c 上内方視で複視がでる。
- d 頭部を健側に傾けると複視が改善する。
- e 頭部を病側に傾けると麻痺眼は下転する。

38 疾患と治療との組み合わせで誤っているのはどれか。

- a 先端巨大症———オクトレオチド
- b SIADH———デスモプレッシン（DDAVP）
- c プロラクチノーマ———プロモクリプチン
- d Sheehan症候群 ———副腎皮質ホルモン
- e Kallmann症候群 ———LH-RH製剤

39 睡眠時無呼吸症候群に特徴的ではない症状はどれか。

- a 胸痛
- b 倦怠感
- c 夜間頻尿
- d 勃起不全
- e 日中の眠気

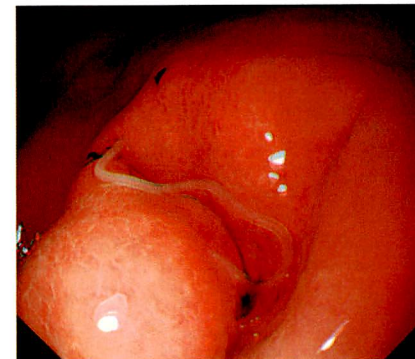
40 抗リン脂質抗体症候群について誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 心筋梗塞の合併がみられる。
- b 梅毒血清反応生物学的偽陽性を示す。
- c 末梢血中の血小板数の減少がみられる。
- d aPTTの延長は正常血漿との混合で是正される。
- e 習慣性流産の予防にはワルファリンが用いられる。

41 56歳の男性。夕食の際、寿司を摂取した数時間後より上腹部痛が出現。夜間も痛みのために眠れず、翌朝受診となった。来院時の胃内視鏡写真を示す。

この状態について誤っているのはどれか。

- a 内視鏡的に摘出する。
- b サバやイカに多くみられる。
- c 小腸に刺入する場合がある。
- d 熱処理した料理でも死滅しない。
- e vanishing tumorを呈することがある。

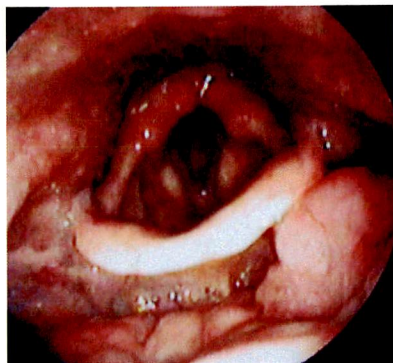


胃内視鏡写真

- 42 70歳の男性。2 か月前からの嚥下時痛と頸部の腫瘍を主訴に来院した。45歳時にアルコール性肝障害を指摘された。飲酒は日本酒 3 合/日を40年間。喫煙は20本/日を50年間である。左頸部に4 × 3 cm大の表面平滑、弾性硬のリンパ節腫脹を触知した。前医にて頸部腫瘍の針生検が行われ、扁平上皮癌が検出されている。経鼻咽喉頭ファイバースコープ所見を示す。

病変について正しいのはどれか。

- a 喉頭内にある。
- b 口腔内にある。
- c 下咽頭後壁にある。
- d 中咽頭前壁にある。
- e 咽喉頭に異常はない。



経鼻咽喉頭ファイバースコープ所見

- 43 生後5日目の新生児。在胎27週、1,080gにて出生。Apgarスコアは5点（1分）、8点（5分）。出生直後から多呼吸、陥没呼吸、呻吟およびチアノーゼを認め、気管内挿管、人工呼吸器管理を開始した。生後3時間、人工肺サーファクタントの気管内投与を行い、呼吸状態は改善した。

日齢4に再び呼吸状態が悪化した。肺野は全体に湿性ラ音、胸骨左縁上部に収縮期雑音を聴取し、橈骨動脈にバウンディングパルスに触れる。胸部エックス線写真では心胸比は65%であった。

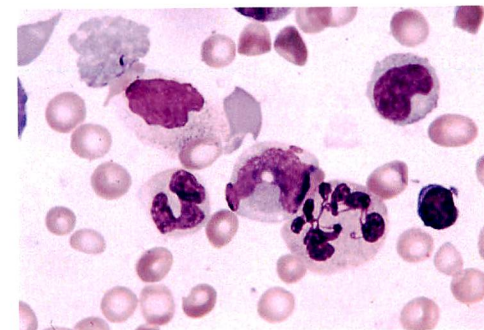
治療として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 水分制限
- b インドメタシン投与
- c プロスタグランジン投与
- d BAS (Balloon artioseptostomy)
- e 人工肺サーファクタント再投与

- 44 12歳の女兒。発熱と全身倦怠感で受診した。白血球 3,200、Hb 7.8 g/dl、血小板数 6.3万/mm³。骨髓のH-E染色標本を示す。

考えられるのはどれか。

- a 骨髓繊維症
- b 再生不良性貧血
- c 骨髓異形成症候群
- d 急性骨髓性白血病
- e 急性リンパ性白血病



骨髓のH-E染色標本

- 45 36歳の女性。不正性器出血を主訴に来院した。子宮頸部細胞診にてクラスV（扁平上皮癌）が認められた。

この症例の進行期決定のために必要でない検査はどれか。

- a 内診
- b コルポスコピー
- c 膀胱鏡
- d 直腸鏡
- e MRI

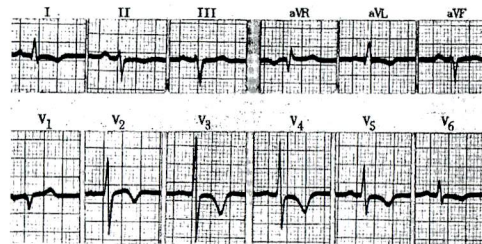
- 46 5歳の男児。野犬にかまれ、傷口からの出血があったため来院した。発症の危険性がある疾患はどれか。2つ選べ。

- a 破傷風
- b 狂犬病
- c ペスト
- d B型肝炎
- e ボツリヌス症

- 47 70歳の男性。胸痛を主訴に来院した。動脈硬化性末梢血管障害により、大腿膝窩動脈バイパス術を4年前に受けている。1年前に胸痛があり、狭心症の診断にてニトログリセリンを処方されていた。10日前より労作時胸痛を認めるようになり、ニトログリセリンの舌下投与が有効であった。2日前より、少しの歩行でも胸痛を来すようになり、さらに昨晚からは安静時にも胸痛を来すようになった。来院時の12誘導心電図を示す。

適切な処置はどれか。

- a 下肢動脈造影
- b 胸部エックス線CT撮影
- c 運動負荷試験
- d 緊急バイパス手術
- e 冠動脈造影



12誘導心電図 (25mm/sec 1mm=0.1mV)

- 48 65歳の女性。易疲労感、動悸、呼吸困難感、上腹部痛を主訴に来院した。

身長156cm、体重45kg。眼瞼結膜は蒼白、匙状爪を認め、胃内視鏡にて潰瘍を認めた。血液所見：赤血球480万、Hb 6.5 g/dl、Ht 32%。血清フェリチン<4 ng/ml。鉄剤の静脈内投与にて治療を開始した。

鉄総投与量の推奨量は、以下の計算式に従った。鉄総投与量の目安で正しいのはどれか。

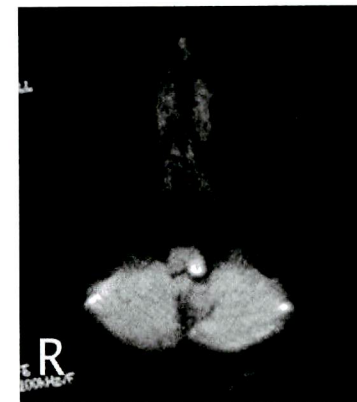
$$\text{必要鉄量 (ng)} = [2.72 \times (16 - \text{患者Hb}) + 17] \times \text{体重 (kg)}$$

- a 250mg
- b 500mg
- c 1,000mg
- d 2,000mg
- e 4,000mg

- 49 67歳の男性。突発する回転性めまいと顔面の違和感を認めたため来院した。受診時の頭部MRI拡散強調画像を示す。

この患者で認められる症候はどれか。

- a 右片麻痺
- b 右Horner症候群
- c 左顔面神経麻痺
- d 右の軟口蓋麻痺
- e 左小脳性運動失調



頭部MRI 拡散強調画像

- 50 42歳の男性。健診で空腹時血糖値128mg/dlのため、精査希望で来院した。口渇、多尿は自覚していない。母と母方の叔父が糖尿病である。

空腹時の尿糖 (±)。身長170cm、体重88kg。血圧138/90mmHg。脈拍66/分。口腔内に異常所見なし。う歯の治療歴あり。下肢の浮腫なし。

糖尿病と診断する根拠となるのはどれか。2つ選べ。

- a HbA1c 6.6%
- b 尿ケトン定性2+
- c 随時血糖212mg/dl
- d 空腹時血糖104mg/dl
- e 75g OGTT2時間血糖値136mg/dl

51 68歳の女性。6週間前から咳、痰が出るようになり、発熱、盗汗も自覚している。体重も48kgあったものが40kgにまで減少し、全身倦怠感が強くなり、やっと受診した。胸部エックス線検査で右上葉に周辺に散布巣を伴う空洞病変を認めた。喀痰検査ではZiehl-Neelsen染色でGaffky 3号、喀痰のPCR検査の結果は結核菌群陽性である。

誤っているのはどれか。

- a 接触者検診を行う。
- b 結核病棟に入院させる。
- c 患者には外科用マスクを着用させる。
- d 診断後、直ちに最寄りの保健所長を経由して各都道府県知事に届け出る。
- e エタンブトール+イソニアジド+リファンピシンの3者で6か月間の治療を行う。

52 50歳の女性。腰痛に対し2週前から消炎鎮痛薬を処方され内服した。1週前より微熱、倦怠感、皮疹が出現したため受診した。体温37.5℃。血圧140/80mmHg。脈拍80/分、整。心音は純で肺野は清、腹部に圧痛なし。両側肋骨脊柱角に叩打痛あり。下腿浮腫なし。背部、下肢に紅斑を認める。尿所見：蛋白＋、潜血（±）、糖＋、沈渣にて白血球 50 /HPF、赤血球 10 /HPF。血液所見：Hb 11.0g/dℓ、白血球10,000、血小板18万。血液生化学所見：総蛋白6.8g/dℓ、アルブミン3.8g/dℓ、ALT 48 IU/ℓ、AST 30 IU/ℓ、尿素窒素35mg/dℓ、クレアチニン2.2mg/dℓ、尿酸7.5mg/dℓ、Na 140 mEq/ℓ、K 5.8 mEq/ℓ、尿中N-アセチルグルコサミニダーゼ（24時間蓄尿）30 v/ℓ（基準1～5）。

行なうべきなのはどれか。2つ選べ。

- a ステロイド投与
- b アンジオテンシン変換酵素阻害薬投与
- c 血液透析
- d 抗菌薬投与
- e 消炎鎮痛薬の中止

53 35歳の男性。日本在住6か月のタンザニア人男性である。ここ数か月の間に、写真のような暗黒色調の隆起性病変が歯肉粘膜に出現し、増大傾向であるという。エイズを心配して受診した。

この病変は何か。

- a パラ疹
- b カボジ肉腫
- c 口腔カンジダ
- d 第2期梅毒疹
- e 悪性リンパ腫



写真

54 72歳の男性。1か月前から労作時息切れを感じる様になり、徐々に増強していた。3日前から発作性夜間呼吸困難が出現し、起坐呼吸の状態緊急入院した。脈拍 85/分、整。血圧 162/80mmHg。呼吸数 22/分。下腿浮腫と頸静脈怒張を認め、全肺野に湿性ラ音を聴取し、心奔馬調律が聴取された。

初期治療として正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 酸素吸入
- b ニトログリセリン舌下投与
- c ジギタリス急速飽和静注
- d 一時的ペースメーカー留置
- e ドパミン持続静注

- 55 28歳の初産婦。妊娠35週の外来受診時に血圧上昇を認め入院となった。

入院時現症：血圧190/120mmHg。全身に浮腫を認める。

検査所見：尿蛋白（3+）、WBC 8,000/mm³、Hb 9.8g/dl、血小板50,000/mm³、PT-T 10秒、APTT 35秒、AT-Ⅲ 50%、CRP 0.1mg/dl、GOT 130 IU/l、GPT 120 IU/l、LDH 600 IU/l

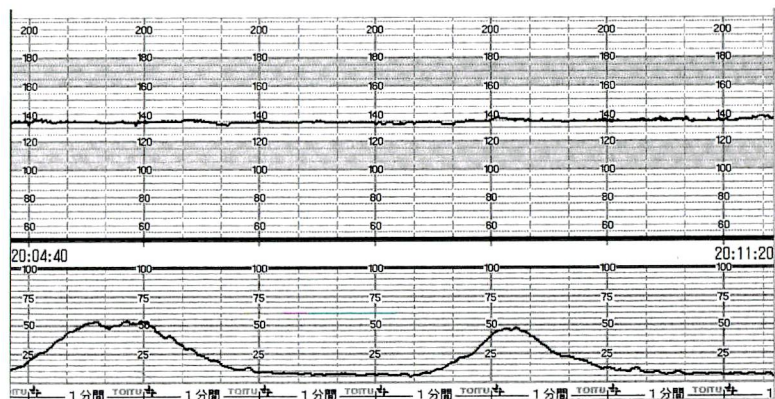
超音波検査所見：胎児推定体重2,300g、AFI 12cm

既往歴：特記すべきことなし。

内診所見：先進部は児頭で子宮口は閉鎖し破水は認められない。入院時の胎児心拍数図を示す。

適切な対応はどれか。

- a 経過観察
- b 帝王切開
- c 肝庇護薬の投与
- d 塩酸リトドリンの投与
- e ラミナリア挿入後分娩誘発



入院時の胎児心拍数図

- 56 生後3日の新生児。外陰部の異常所見と色素沈着を認めた。在胎39週、体重3,120gで出生した。

血液所見は、赤血球 480万/ μ l、白血球 11,000、血小板 32万/ μ l、尿素窒素 3mg/dl、クレアチニン 0.3mg/dl、Na 129 mEq/l、K 6.2 mEq/l、ACTH 277 pg/ml（基準60以下）、17 α -ヒドロキシprogテストロン 53 ng/ml（基準7.5以下）であった。染色体46,XX。

まず行うのはどれか。

- a 陰核形成術
- b 尿道形成術
- c エストロゲン補充療法
- d progテストロン補充療法
- e グルココルチコイド補充療法

- 57 58歳の男性。腹部超音波検査で脾臓部に10mmの結節を伴う35mm大の嚢胞性病変を指摘され来院した。

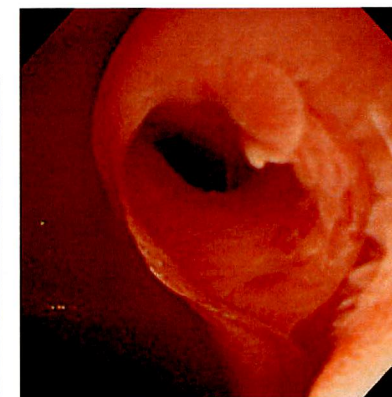
血液所見：白血球5,600。血液生化学所見：血清アミラーゼ86 U/L（基準 37~125）。免疫学所見：CRP 0.6mg/dl。腹部造影CTと内視鏡的逆行性膵管造影検査時の主乳頭像を示す。特に自覚症状は認めていない。

正しいのはどれか。

- a 胆嚢摘出術
- b 脾床ドレナージ
- c 脾頭十二指腸切除術
- d 経胃の脾嚢胞ドレナージ
- e 蛋白分解酵素阻害薬の投与



腹部造影CT



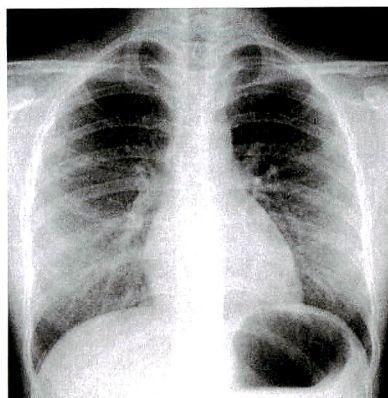
内視鏡的逆行性膵管造影検査時の主乳頭像

58 18歳の女子。検診の胸部エックス線検査で異常陰影を指摘されて、精査目的にて当院を受診した。自覚症状は特にない。

胸部エックス線検査所見および胸部CT検査所見を示す。

胸部画像診断より何が最も疑われるか。

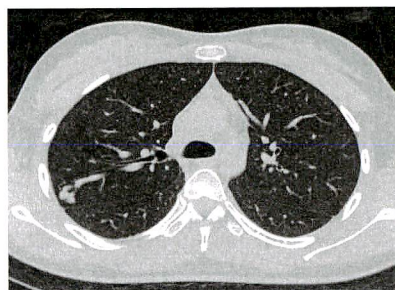
- a 肺分画症
- b 原発性肺癌
- c 転移性肺癌
- d 肺動静脈瘻
- e 硬化性血管腫



胸部エックス線検査所見



胸部CT検査所見

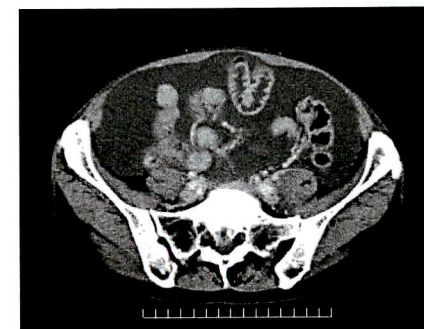


胸部CT検査所見

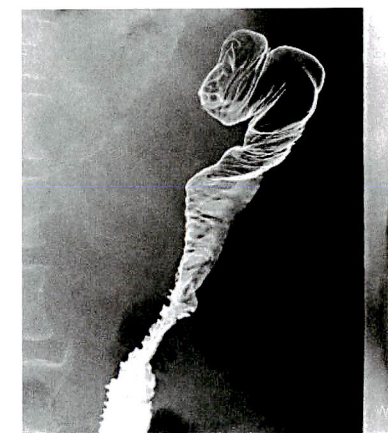
59 48歳の女性。1か月前から食後の腹痛が出現し、腹部膨満感を主訴に来院した。2年前に胃全摘、脾摘、2群リンパ節郭清を受けた。皮膚はやや乾燥し、腹部は全体に膨隆している。2年前に摘出された胃の病理所見はBorrmann4型胃癌で、組織型は低分化型腺癌、壁深達度は漿膜に達していた。腹部造影CTと注腸造影を示す。

考えられるのはどれか。

- a 腹腔内膿瘍
- b 後腹膜腫瘍
- c 癌性腹膜炎
- d 消化管穿孔
- e 虚血性大腸炎



腹部造影CT



注腸造影

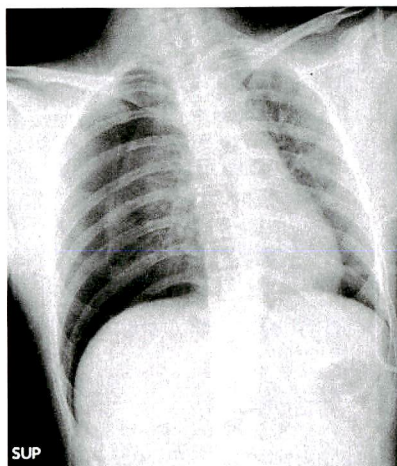
- 60 30歳の女性。腰痛を主訴に来院した。2年前から荷物の積み下ろしの仕事を始めた。2か月前から腰痛が増強したが、安静時には痛みは消失する。体幹前屈時に腰痛は増強する。

まず行うべきものはどれか。

- a 職業変更
 - b 心理療法
 - c 長期安静
 - d 入院手術
 - e 動作姿勢の指導
- 61 40歳の男性。自転車で行走中に乗用車と衝突し、6 m飛ばされた。救命センター搬送時、意識は良好だが、呼吸苦を訴えており、血圧80/42mmHg、脈拍126/分であった。右頸静脈怒張を認め、聴診上右呼吸音の消失を認めた。エックス線写真を示す。

診断はどれか。

- a 大量血胸
- b 大動脈破裂
- c 緊張性気胸
- d 心タンポナーデ
- e フレイルチェスト



エックス線写真

- 62 35歳の男性。金属の圧延を主作業としている工場に従事している。作業時には作業服及び防護メガネを装着している。時にはかなり振動の強い運搬車を運転し、工場内を移動している。ある夏の日、全身疲労感を訴え、「目の前が暗くなった感じ」と訴えた。たまたま巡回中だった産業医が脈拍を測ると100/分であった。

最も考えられる健康障害はどれか。

- a 白内障
- b 熱中症
- c 角結膜炎
- d 網膜損傷
- e Raynaud現象

- 63 69歳の女性。歩行障害を主訴に来院した。

既往歴：高血圧のため内服治療中である。

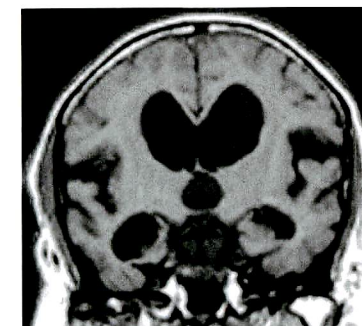
現病歴：半年ほど前から歩行時の足の運びが悪くなり、外股で不安定となった。また注意が散漫となり、思考や反応も緩慢となった。

現症：血圧 140/85 mmHg。全身所見に特記すべきものなし。

神経学的所見：意識清明。改定長谷川式簡易知的機能評価スケール 15/30点、脳神経に異常なし、歩行時の歩幅の減少、足の挙上低下を認める。頭部MRI T1強調像（冠状断）を示す。

この疾患の治療方針を決定するのに最も有用なのはどれか。

- a 脳波
- b 脳槽造影
- c 髄液排除試験
- d 頸動脈超音波
- e 脳血流シンチグラフィ

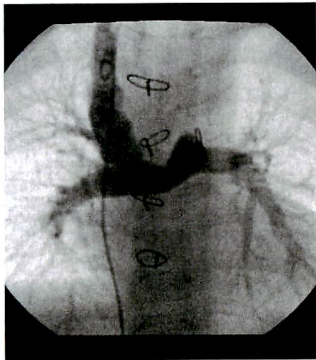


頭部MRI T1強調像（冠状断）

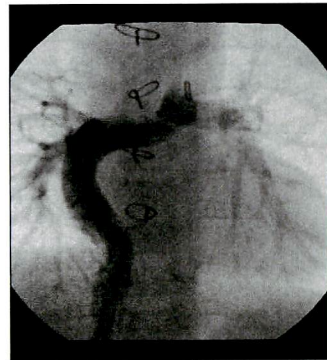
- 64 1歳6か月の女児。生下時にチアノーゼを認め、三尖弁閉鎖症、肺動脈狭窄症と診断。1歳2か月時に手術を施行、術後上・下大静脈造影を示す。

正しいのはどれか。

- a 心房中隔欠損は閉鎖している。
- b 右室に容量負荷がかかっている。
- c 中心静脈圧は左房圧よりも高い。
- d 動脈血酸素飽和度は80%台である。
- e 行われた手術は両方向性Glenn手術である。



術後上・下大静脈造影



術後上・下大静脈造影

- 65 24歳の女性。19歳時から「不安の発作」があり、精神科クリニックを受診して抗不安薬を投与されている。「不安の発作」とは、心窩部からつきあげられるような悪心、呼吸困難感あるいは空気を吸えない感じ、動悸、冷汗が突然生じる発作性の症状であり、死ぬのではないかとこの恐怖を覚え、時には意識を失って倒れ、全身が数十秒間けいれんすることがある。意識を失って倒れた際に救急搬送されたことが2回あり、2回とも、心電図では頻脈を指摘され、動脈血ガス分析と頭部MRIでは異常を指摘されなかった。「不安の発作」が生じるのではないかと、いつも恐れている。セカンドオピニオンを希望して、大学病院へ来院した。

さらに尋ねるべき事項として最も不適切なのはどれか。

- a 症状の頻度
- b ボディイメージ
- c けいれんの性状
- d 睡眠中の症状の有無
- e 症状を寛解または増悪させる因子

- 66 70歳の女性。1年前から次第に増大する皮疹を主訴として来院した。同部は40年前に熱傷を受傷し、瘢痕となっていた。皮疹の写真を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 神経線維腫
- b 有棘細胞癌
- c 基底細胞上皮腫
- d Bazin硬結性紅斑
- e サルコイドーシス



皮疹の写真

- 67 36歳の女性。1週間前から頭痛と耳鳴りを認めた。その後、徐々に両眼の視力が低下し来院した。視力は右眼0.1 (0.3 × -4.00D)、左眼0.1 (0.1 × -4.00D)であった。右眼の眼底写真と蛍光眼底造影写真を示す。左眼も同様の所見であった。

診断はどれか。

- a 糖尿病網膜症
- b 虚血性視神経症
- c Vogt-小柳-原田病
- d サルコイドーシス
- e 網膜中心動脈閉塞症



右眼の眼底写真



蛍光眼底造影写真

68 45歳の男性。交通事故で下腹部を強打し、軽度の出血性ショックの状態で搬送された。排尿はできないが外尿道口から少量の出血がみられる。下腹部は膨満して疼痛を訴える。輸血により状態は安定したが、静脈性腎盂造影にて骨盤骨折と膀胱の涙滴様陰影が見られた。直腸診で前立腺部に緊張性の腫瘍が触知される。

緊急に行う処置として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 骨盤部造影CT
- b 経皮的膀胱瘻造設術
- c 尿道カテーテル留置
- d 水溶性造影薬による尿道造影
- e 骨盤骨折に対する牽引・固定

69 24歳の女性。くしゃみ、鼻汁および鼻閉を主訴に来院した。鼻汁は水様性である。症状は4年前から春に出現し、晴天時に悪化する。

正しいのはどれか。

- a 嗅覚障害はない。
- b 血清IgA値が高い。
- c II型アレルギーである。
- d 鼻汁中に好酸球がみられる。
- e 吸入抗原としてはハウスダストが最も多い。

70 55歳の男性。42歳時に気管支喘息の診断を受けている。今回、近医にて腰痛治療のため非ステロイド性抗炎症鎮痛薬の坐薬を使用したところ、30分後に顔面紅潮、水溶性鼻汁とともに強い呼吸困難が出現したために、救急車にて来院した。来院時、顔色不良で意識はほぼ清明、会話は困難で起坐呼吸、歩行も困難であった。胸部聴診所見では全肺野に高音性連続性ラ音を聴取し、呼吸音は減弱していた。

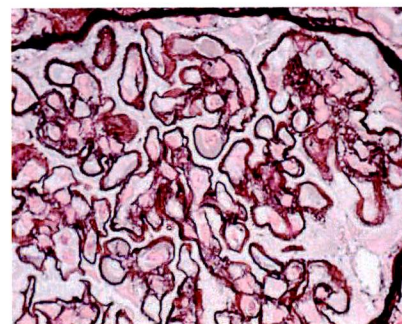
正しいのはどれか。

- a 慢性副鼻腔炎や鼻茸の有無を聞く。
- b 血清抗アスペルギルス抗体を測定する。
- c CO₂ナルコーシスの危険があるため、酸素投与は避ける。
- d 気道におけるロイコトリエンの産生低下の関与が示唆されている。
- e 発作が改善するまで β_2 刺激薬の吸入を20～30分間隔で繰り返す。

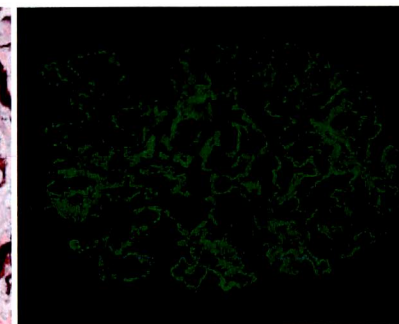
71 73歳の女性。下肢のむくみを主訴に来院した。1年前の健診にて蛋白尿を指摘されていたが放置した。1か月程前より両下肢のむくみが増え体重が5kg増加した。来院時、血圧142/82mmHg。脈拍68/分。眼瞼浮腫あり。肺野清。心雑音なし。肝脾を触知せず。両下腿に浮腫あり。尿所見：蛋白3+、蛋白定量3.8g/日、潜血+。血液生化学所見：総蛋白5.2g/dl、アルブミン2.6g/dl、総コレステロール358mg/dl、尿素窒素25mg/dl、クレアチニン1.0mg/dl。腎生検PAM染色標本と抗IgG抗体を用いた免疫染色標本を示す。

この疾患について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a ASO高値を示す。
- b 悪性腫瘍の合併がみられる。
- c 一過性の低補体血症がみられる。
- d ステロイド治療で早期に寛解する。
- e アルブミン選択性が不良の蛋白尿が見られる。



腎生検PAM染色標本

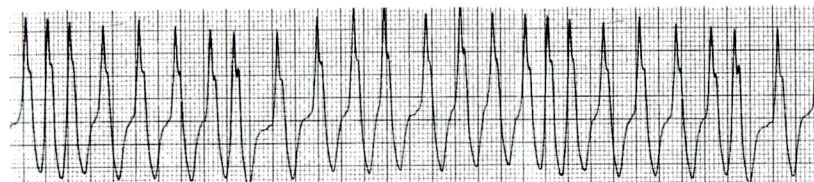


抗IgG抗体を用いた免疫染色標本

72 42歳の男性。健診で心電図異常を指摘されたことがあるというのが詳細は不明。これまで特に自覚症状はなかったが、飲酒後突然胸部不快を感じ、冷汗を伴った。意識消失はなかった。30分安静にしても改善しないため、救急来院した。来院時、意識清明。身長175cm、体重75kg。体温36.4℃。脈拍64/分、微弱で不整。血圧82/68 mmHg。心音呼吸音に異常ないが呼吸苦を訴える。下肢に浮腫は認められない。来院時のモニタ心電図（II誘導）を示す。

治療方針として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b ジギタリス静注
- c プロカインアミド内服
- d エピネフリン静注
- e 直流除細動



モニタ心電図（II誘導）

73 50歳の女性。数か月前から動悸や息切れとともに、のぼせや発汗が著明となった。憂鬱になることが多く、夜間に覚醒すると眠れないという。血圧128/64 mmHg。子宮は小鶏卵大、両側付属器は触知しない。血液所見：TSH 3.0 $\mu\text{IU/ml}$ （基準 0.3～4.0）、 F-T_3 2.7 pg/ml（基準 2.5～4.3）、 F-T_4 1.2 ng/dl（基準 1.0～1.8）、FSHとLHはともに高値を示し、エストラジオールは測定感度以下であった。

ホルモン療法として正しいのはどれか。

- a FSH、LH値を低下させるためにGnRHアゴニストを投与する。
- b 子宮体癌の発生率が増加するのでエストロゲン製剤を単独投与する。
- c 卵巣を刺激するためhMG-hCG療法を行う。
- d エストロゲンとプロゲステロンを投与する。
- e 抗甲状腺薬を投与する。

74 14か月の男児。1歳頃から月に1～2回の下血があったが、元気に過ごしていた。14か月に入りレンガ色の血便が週に1回程度みられるようになり、しばしば暗赤色の事もあった。食欲はあり元気だったが、顔色が悪いのが心配になり来院した。赤血球348万/mm³、Hb 8.9g/dl、Hct 26.4% ^{99m}TcO₄ シンチにて胃粘膜以外にも腹腔内に集積を認めた。

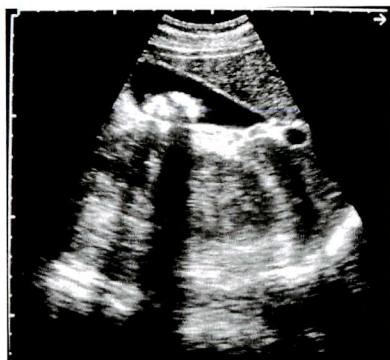
正しいのはどれか。

- a 卵黄管と関係がある。
- b 無症状に経過する例は少ない。
- c 通常バリウム造影でも診断可能である。
- d 腹部単純エックス線は診断に有用である。
- e 炎症を起こしても虫垂炎との鑑別は容易である。

75 50歳の女性。健康診断の腹部超音波検査で異常を指摘された。手術の既往はない。腹痛や発熱はない。意識は清明。体温36.7℃。脈拍98/分、整。血圧132/78 mmHg。腹部は平坦で軟らかく、圧痛は認めない。血液所見：赤血球420万、Hb 14.2 g/dl、Ht 42%、白血球7,800、血小板28万。血液生化学所見：総ビリルビン1.0 mg/dl、直接ビリルビン0.8 mg/dl、AST 25 IU/l、ALT 18 IU/l、ALP 100 IU/l（基準 115～359）。腹部超音波写真と内視鏡的逆行性膵管胆道造影（ERCP）写真を示す。

正しいのはどれか。

- a ERCP写真では、総胆管の狭窄がみられる。
- b ERCP写真では、主膵管が造影されている。
- c ERCP写真では、胆嚢内に陰影欠損はみられない。
- d 超音波写真では、Acoustic shadowがみられる。
- e 超音波写真では、胆嚢の壁が著明に肥厚している。



腹部超音波写真

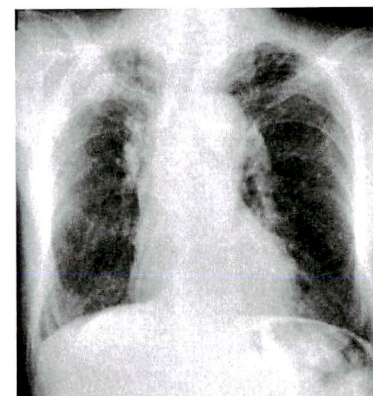


内視鏡的逆行性膵管胆道造影（ERCP）写真

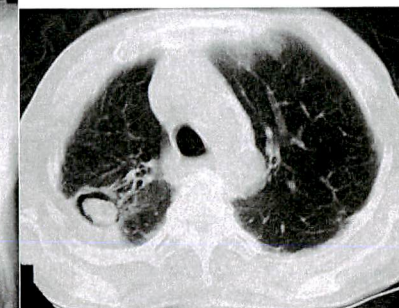
76 74歳の女性。血痰を主訴に来院した。15歳時、肺結核の既往がある。2週間前から、咳嗽を自覚。3日前から血痰を伴うようになった。喫煙歴はない。意識清明。体温36.2℃。呼吸数14/分。血圧 120/82 mmHg。脈拍80/分、整。身体所見に異常を認めない。血液所見：赤血球422万、Hb 12.2 g/dl、Ht 40%、白血球3,700（桿状核好中球 5%、分葉核好中球 52%、好酸球 4%、単球 3%、リンパ球 36%）、血小板18万。免疫学所見：CRP 1.2 mg/dl、 β -D-グルカン 24 pg/ml（基準 11以下）。胸部エックス線写真と胸部単純CTを示す。

病原体として考えられるのはどれか。

- a *Candida albicans*
- b *Trichosporon asahii*
- c *Pneumocystis jirovecii*
- d *Aspergillus fumigatus*
- e *Cryptococcus neoformans*



胸部エックス線写真



胸部単純CT

77 22歳の女性。右膝関節痛を主訴に来院した。

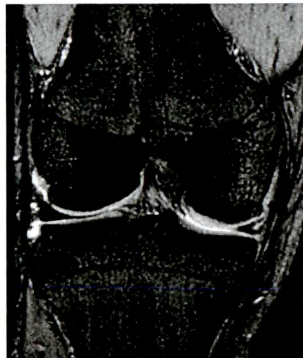
現病歴：昨日バスケットボールをした際、膝をひねって受傷した。

既往歴：特記すべきことなし。

現 症：右膝関節の腫脹と膝蓋跳動を認めた。関節穿刺で10mlの血性関節液を認めたが、脂肪滴は認めなかった。MRI T2強調画像の前額断と矢状断を示す。

診断はどれか。

- a 半月板損傷
- b 前十字靭帯損傷
- c 離断性骨軟骨炎
- d 膝蓋軟骨軟化症
- e Osgood-Schlatter病



MRI T2強調画像の前額断



MRI T2強調画像の矢状断

78 42歳の女性。事務員として勤務している。2 か月前から頭痛と四肢のしびれ感が頻繁に起きるようになり、頭痛が我慢できないときには市販の鎮痛薬を服用するが、効いた気がしない。夜の睡眠も次第に浅くなり、最近は早朝に目が覚めてしまうことが多い。食欲もなくなり、体重も5 kg減った。仕事のミスも増え、家事も以前ほどできなくなった。総合病院内科で精査した結果、身体的異常所見は認められなかった。

治療薬として適切なものはどれか。

- a 感情調整薬
- b ビタミンB12
- c メチルフェニデート
- d ベンゾジアゼピン系抗不安薬
- e 選択的セロトニン再取り込み阻害薬 (SSRI)

79 60歳の女性。胃癌の手術のため入院中である。38℃の発熱とともに全身の皮疹が出現した。皮疹は顔面を含む体幹四肢の広範囲に多発してみられ、個疹は境界明瞭の浮腫性の紅斑で、辺縁はわずかに隆起し、中央は色淡くやや陥凹した状構造を呈していた。体幹の紅斑の一部は水疱になり、破れてびらんとなった。また眼瞼眼球結膜の充血と、口唇の腫脹、口腔粘膜のアフタを伴っていた。10日前よりセフェム系抗生薬の点滴投与と、疼痛に対して非ステロイド性解熱鎮痛薬を継続して使用し3日前に造影剤を用いたCT撮影を行っていた。

正しいのはどれか。

- a 皮膚症状以外は一過性に改善する。
- b 薬剤を中止すればすみやかに改善する。
- c 副腎皮質ステロイド薬外用にて著効する。
- d 原因検索のための再投与試験は禁忌である。
- e 過去にアレルギー歴の無い薬剤は継続使用可能である。

- 80 47歳の女性。朝から右耳鳴りを感じていた。昼頃より右聴力低下と激しい回転性めまいに襲われ、1時間後には強い回転感は治まったが、現在も軽度の回転性めまいが続くため来院した。吐気が強く、嘔吐したという。2週間前から両耳閉塞感が繰り返されており、子供の声や、航空機の騒音が耳に響いていた。手足のしびれ、舌のもつれなどはなかった。1年前にも同様のめまいが2回あった。初診時の鼓膜所見は正常で、純音聴力検査で右耳の低音部感音難聴が認められた。

検査所見はどれか。

- a 右耳のあぶみ骨筋反射が陰性である。
- b 非注視眼振検査で定方向性眼振を認める。
- c 電気味覚検査で右側舌前2/3の味覚の低下を認める。
- d 電気性身体動揺検査では、右側で反応がない。
- e リクルートメント現象は陰性である。